

## K Z型に使用する流動担体（スポンジ）について

株式会社クボタ 浄化槽事業ユニット

クボタ K Z型浄化槽は、微生物による有機物等の分解をより効率良く進めるため、微生物の「棲み家」となる担体にスポンジを採用しています。

スポンジ担体は、一般的に比表面積が大きく形状加工が容易なことから、多くの排水処理に実績があり、また研究・開発も盛んに行われています。

しかし、スポンジ担体は材質によって水槽内で担体同士が擦れ合うことによる摩耗および加水分解を受けやすい製品もあり、交換・補充が必要となる例があります。

クボタ K Z型浄化槽では、今回のスポンジ担体採用において、過去の事故例や実証試験データを十分に検討し、浄化槽での使用範囲においての摩耗、分解の少ないスポンジ担体に仕上げました。

特に「摩耗」については、原料選定によりスポンジ本体の耐摩耗性を高めるとともに、スポンジの外部をプラスチック（※PP製）で覆う形状とし、スポンジ本体が直接擦れ合う事がないように物理的な保護を施しています。（下図参照）

以上のような対応により、クボタ浄化槽 K Z型の流動担体は、通常の浄化槽使用の範囲であれば、弊社のPP製担体とほぼ同等の耐久性を有しております。

以上

※PP製（材質：ポリプロピレン）担体は弊社浄化槽で13年以上の使用実績があります。

